
令和2年

12月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

令和2年12月の普及活動状況ダイジェスト版

新たなブランドづくり

郡上農林■スマート農業 郡上市農業振興大会において普及活動の成果を発表

12月5日「日本まん真ん中センター」において、郡上市農業振興協議会の主催により、県・市会議員、農業関係者、関係団体等の参加のもと、郡上市農業振興大会が開催された。

大会では、各農業団体の活動報告に加え、郡上農林事務所からは「ひるがの高原だいこんの産地維持体制の確立とブランド力の向上」と題して、日ごろの普及活動の成果を発表した。発表では、本年度から取り組んでいるスマート農業実証プロジェクトにも触れ、現地の状況や生産者の声を、スライドを交えて紹介した。

農業普及課では、今後プロジェクトの成果をまとめ、農業者等も交えて実証した各技術を評価し、その普及に取り組む。



【普及活動の成果を発表】

東濃農林■アスパラガス 栽培技術研修会を開催

12月15日、瑞浪市の生産者ほ場で今年度初めてとなる「アスパラガス研究会」主催の研修会を開催した。生産者やアスパラガス生産に関心がある方、関係機関を含め17名が参加した。

研修会では生産者から今年度の生産販売状況や、今後の生産に向けた話をさせていただき、農業普及課から栽培について反省点や、高温、病害虫、雑草対策及びアスパラガスの残茎処理など、秋から冬にかけての栽培管理について説明した。また、生産者間で積極的に意見交換や検討が行われた。

農業普及課では、引き続きアスパラガス安定生産に向けた栽培研修会を開催し、東濃地域における生産拡大に向け支援を行っていく。



【研修会の様子】

下呂農林■エゴマ 令和2年産エゴマの搾油作業が開始

飛騨小坂あぶらえ生産組合ではエゴマを約4ha作付けた。7月の長雨による湿害や日照不足の影響を受け、多くのほ場で生育不良となった。その中、農業参入法人では収量が良好であり、10aあたり収量は昨年並み、総生産量600kg以上を確保した。

12月16日から下呂市小坂町の「えごまの郷」において、本年収穫したエゴマの搾油作業を開始した。作業は1月末まで継続される予定であり、農業普及課では搾油作業状況の継続的な確認とともに、油の酸化度や α -リノレン酸含有量等の成分分析・品質確認を行い、生産者の加工品生産を支援する予定である。

農業普及課では、今後も下呂市、中山間農業研究所との連携し、エゴマの安定生産技術の確立・普及、販売・PR支援を継続する。



【搾油の様子】

多様な担い手づくり

西濃農林■将来を担う農業者の確保 管内農業の現地巡回学習会（大垣養老高校）

12月10日に西南濃農業普及事業推進協議会（会長：大垣市長）は、将来の地域農業の担い手育成・確保を目的に、県立大垣養老高等学校1年生を対象とした現地学習会を開催した。希望した生徒22名、引率の教諭と市町の関係者が参加した。

指導農業士など管内を代表する農業経営体5か所（花き、土地利用型作物2か所、畜産、6次産業化）並びに岐阜県就農支援センター、スマート農業推進センターを視察した。また、農業大学校と国際園芸アカデミーの学校紹介もあわせて行った。



【視察の様子】

参加した生徒たちは、管内トップレベルの農業経営に関する説明を受け、予定した時間を超えるほど多くの質問をするなど高い関心を持って学習した。

この学習会は実際の農業現場を知ってもらう良い機会であるため、農業普及課では将来の西濃地域の農業を担う人材を育てる一助になるよう企画支援を行った。

飛騨農林■新規就農者 新規就農者激励会を開催

指導農業士会飛騨支部、青年農業士会飛騨支部、飛騨農林事務所の主催による「新規就農者激励会」を、12月16日に高山市で開催した。高山市・飛騨市・農協等関係機関からも出席いただき、総勢40名の盛大な激励会となった。

今年度の新規就農者のうち16名が出席し、「若さを活かし時代に合った魅力ある農業がしたい」「1人でやってみると難しいと感じ、力不足を感じた」「久々の果物を広め、食べた人を笑顔に出来れば」など、建設的な意見が多数出された。農業士からは、適期作業の重要性、新品目への挑戦や販売方法等に関する助言があった。また、関係機関からは様々な支援策があるので気軽に問い合わせしてほしい、といった呼びかけがなされた。

農業普及課は、就農後の経営安定に最も力を入れ、営農定着できるよう継続して支援していく。



【参加者全員でパチリ】

革新支援センター■女性起業グループ 農村女性起業化促進研修開催

12月9日、農産物の加工に取り組む女性起業グループを対象に、農村女性起業化促進研修を開催した。

22名が参加し、食品衛生法の改正内容及びHACCPに沿った衛生管理のポイント等について、飛騨保健所及び6次産業化プランナーから講義を聴講した。食品衛生法の改正により、すべての食品加工事業者がHACCPに沿った衛生管理を行わなければならない、皆熱心に聴講していた。研修後のアンケートでは、内容が難しいと感じた農業者もあったが、重要な事柄であると認識されていた。



【講義の様子】

売れるブランドづくり

岐阜農林■加工業務用ほうれんそう 収穫作業効率化への挑戦！

各務原市では昨年から加工業務用ほうれんそうの栽培に取り組んでいる。9月下旬に40a播種が行われ、12月7日から収穫が始まった。

昨年は手刈り収穫で作業効率が悪かったため、今年はほうれんそう収穫機を利用して収穫を行った。収穫作業はスムーズに進み、天候に恵まれたこと、昨年の教訓を活かし栽培の改善に取り組んだことで、昨年を上回る収量であった。

農業普及課では、今年の実績をとりまとめ、来年の栽培に活かしていきたい。



【ほうれんそう収穫機】

揖斐農林■いちご 出荷始まる「華かがり栽培」に向けて

12月11日揖斐川町・池田町、12月17日大野町の各集荷場で出荷目揃え会が開催され、品質と規格を確認し、本格的ないちごシーズンへと突入した。

揖斐地区では約3haのほ場で「美濃娘」、「濃姫」、「華かがり」の3品種を栽培している。「華かがり」は、果実が大きい・形が良いなどの特徴を備え、「濃姫」の後継品種としての期待が高く、生産者2名が22aで栽培を行っている。農業普及課は「華かがり」の高位安定した収量の確保および市場ニーズにあった品物の供給を目的とし、生産者や関係機関から栽培管理状況の聞き取り、生育状況の確認、今後の管理等の助言を行い、揖斐地区の気候に適した栽培管理の確立に向け支援している。

今後も生産者、関係機関とともに揖斐ブランド確立に向け、「華かがり」を有望な品種として支援を行う。



【華かがりの生育状況】

中濃農林■キウイフルーツ **令和2年度飛騨美濃特産名人に認定**

12月25日に、岐阜県庁で令和2年度飛騨美濃特産名人認定証授与式が開催され、関市の神山博和氏がキウイフルーツ名人として認定された。

神山氏はJAめぐみのキウイフルーツ生産部会（設立時：洞戸村キウイフルーツ生産組合）の設立時からのメンバーで、部会長を平成22年から現在まで11年間務め、溶液受粉・環状剥皮など栽培技術の普及や、販路開拓・産地PRに尽力された。授与式では、知事から「初めてキウイフルーツで認定。今後も後進の育成に、また産地の牽引役として尽力いただきたい。」と激励の言葉がかけられた。



【知事から認定証を授与】

恵那農林■花き **シクラメンモニター・フラワーフライデー同時開催！**

12月10日に、恵那花き研究会主催による一般県民、県職員、中津川・恵那市職員に向けて、管内で生産されているシクラメンをはじめとする花きの注文販売支援を行った。

恵那総合庁舎職員、各市職員に向けては、フラワーフライデーの取り組みとして、シクラメン、シンビジウム、セダム、トマトの販売を行った。

一般県民、県庁職員に向けてはシクラメンをモニター販売した。モニター販売は毎年行っており、冬の風物詩として心待ちにしていた方も多く、喜んで買っていかれる姿が見られた。2か月後にモニターに対して開花状況や管理方法のアンケートを実施し、結果を今後の栽培管理や販売時のPR材料として活用する予定である。

今後も農業普及課では、シクラメン栽培発祥の地である恵那地域の産地PRを行うなど、継続して支援していく。



【県庁でのPR販売】

住みよい農村づくり

可茂農林■農福連携 **中濃圏域における農福連携会議設立趣旨説明会の開催**

農福連携の取組の定着および拡大を進めるため、農業サイドと福祉サイドの関係機関による地域農福連携会議を設立した。12月11日に中濃圏域の3地域農福連携会議が合同で設立趣旨説明会を開催した。

農林事務所から、農福両サイドの関係機関が情報交換を行うことにより、農福連携の取組の拡大を図る目的と、今後の活動方針等について説明した。また、ぎふアグリチャレンジセンター農福連携推進室から県内のこれまでの取り組み事例の情報提供を行うとともに、JAめぐみのからは、さといもやキウイフルーツの出荷前調整作業を福祉事業所に委託している事例について紹介された。

来年度は、意見交換会や研修会等を開催し、一層の連携強化を図り具体的な取組につなげていく。



【会議風景】